

基本方針と実施項目

以上のヒアリングの結果に基づき、大阪教区で「神学生養成基本方針」が取りまとめられた【資料2】。また、これに沿って具体的な実施項目として整理したものが「司祭召命を育むための実施項目」である【資料3】。これらは、3月16日の司祭評議会でも正式に承認された。

一粒会からのメッセージ

司祭の召命は我々の世代だけでなく、子どもや孫の世代にとつて非常に大切なことであり、教会を次世代に紡ぐことが、今の私たちが世代の責務であろう。

多くの司祭召命が増えることを願っています。(一粒会委員長 横江友則)



神学院の食事の風景

>>> 神学院の皆様、ご協力ありがとうございました! <<<

【資料2】「神学生養成基本方針」

(※以下、要約・抜粋)

- ① 新しい教会像の構築 ▶ 外国籍信徒との交わり、新しい言語の習得・海外研修をとおりて世界観を広げる
② 識別を深める ▶ 現代社会の便利さの中に潜む危険性と、不便さの中にある人間的価値を見極める信仰の目を養う
③ 変わらぬものを求める ▶ 個人の主観ではなく、カトリック教会の伝統と教えを通してキリストを解釈し、それに基づいて行動する
④ 福音的芽生えを育てる ▶ 新たに生まれる小さな祈りや活動のグループなどの福音的芽生えに気づき、それを育てる感覚を養う
⑤ 創造的姿勢 ▶ 困難の中に信仰的意味と価値を見出し、それを成長のステップと連帯の機会としていけるよう学び続ける

【資料3】「司祭召命を育むための実施項目」

- 1 神学生・新司祭の小教区訪問での講話
2 青年会・黙想会・錬成会・茶話会などの定期的な開催と司祭の参画
3 互いの孤独解消のための地域における包摂的な場の開設
4 司祭による聖書勉強会の開催
5 SNSを活用したみことばの拡散
6 召命黙想会参加者への一部補助
7 本人が安心して司祭になれる、親が安心して子を司祭職に送り出せる環境整備

夙川ブロック合同堅信式



どんなに小さな声でも

4月24日(日)14時、芦屋教会で夙川ブロック(芦屋・夙川・甲子園)の合同堅信式が行われた。17人の受堅者、その家族と代父母を含む98人の参列者がこの日を祝った。

今年もコロナ禍中での開催となり、感染対策をしながらの式となった。主司式は、芦屋教会出身の酒井俊弘補佐司教。共同司式は川野裕明神父(芦屋)、李昇倫神父(夙川)、ラモン・ロペス神父(オプス・デイ)。コロナ禍のためにしばらく聖歌を歌えなかったが、この日は会衆皆で歌うことができ、受堅者のために心を一つにできた喜びの感謝の祭儀となった。

酒井司教はミサ説教の中で、次のように述べた。「堅信を受けても、特に目に見える変化はありません。しかし、目には見えなくても...」

受堅者の感想

「神様と近くなることができて、とてもうれしかったです。」(芦屋教会 堅信式実行委員会・広報委員会)



雨が止んだつかの間、聖堂前の大階段で記念撮影

【一粒会献金振込先】郵便振替 00970-8-308001 加入者名 カトリック大阪大司教区 (※一粒会専用の口座)

個人による回答を小教区でまとめて送ってきたり、または個人が直接回答を送ってきたりしたケースが大半であった。そのなかでコロナ禍にもかかわらず、分かち合いをして、そのまともを送付してくれた小教区があった。

ある一方、「昔はよかった」的な感想もみられた。30代の人たちが10人くらい集まって、前向きな提案をしてくださった返答は、読んでいて励まされた。

「教会から離れてしまっている知り合いがいる」(シノドス担当チーム)

「ともに歩む」教会に向けて教区・地区レベルでの集いを積み重ねていくとよいのではないかと。あらゆる活動をこの観点から見直していくことはとても有意義で実質的だと思う。今後数年にわたって「ともに歩む」教会への刷新を継続していくらと思っている。



大阪教区

シノドス 意見聴取結果

来年2023年、バチカンで行われるシノドス(世界代表司教会議)。事前に地方教会の現状を調査するために、昨年各教区に質問票が送付された。これに各小教区で「分かち合いをして回答すること自体が、今回のシノドスのテーマである」とともに歩む教会...」

と答えた人は多く、いろいろな要因で離れてしまふことへの丁寧な対策が必要との指摘があった。「宣教活動が弱い」と感じている人が多いようだ。信徒がチームを組んで集いを行うことが大切だと以前から指摘されていたが、実際にはあまり進んでいない現状が見えた。

集計をふりかえって

特に印象に残った回答

今後によせる期待